



「かかわる力」を育成する幼小中一貫教育の活動と  
その特質(その3)

-宮崎大学教育文化学部附属学校園の取組3

"附属ならでは"の特徴的な活動において-

メタデータ	言語: jpn 出版者: 宮崎大学教育文化学部附属教育協働開発センター 公開日: 2014-04-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 安藤, 真二, 鵜戸, 周成, 福島, 祐子, 河原, 国男, Sinji, Ando, Udo, Shusei, Fukushima, Yuuko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10458/5803">http://hdl.handle.net/10458/5803</a>

# 「かかわる力」を育成する幼小中一貫教育の活動とその特質 (その3)

— 宮崎大学教育文化学部附属学校園の取組③  
“附属ならではの” 特徴的な活動において —

安藤真二\* 鶴戸周成\*\* 福島裕子\*\*\* 河原国男

**The Characteristics of Unified Educational Activities from Kindergarten and to Early Secondary Levels in order to Foster Each Child's Abilities to Relate to Others and Things (Part3) : Focusing on Educational Activities peculiar to the Schools Attached to University**

**Sinji ANDO\*, Shusei UDO\*\*, Hiroko HUKUSHIMA\*\*\* and Kunio KAWAHARA**

## 1 はじめに

本稿は一連の論稿とともに(以下、本研究)、宮崎大学教育文化学部(平成28年度以降は教育学部)附属幼稚園・小学校・中学校(以下、3附属学校園)において「かかわる力」を育むということが一貫した教育目標としてどう位置付けられ、どのような教育活動として展開しているかをまとめ、その取組の特質を考察するものである。「かかわる力」の概念については、本研究の(本研究紀要、第24号掲載の同名論文その1)において規定した。本稿では、“附属ならではの”といえる特徴的な教育活動において「かかわる力」をどう育成しているかを明らかにする。

## 2 「かかわる力」を育む活動 — “附属ならではの” 特徴的な活動において—

### 1) 附属幼稚園 — 「わらべうた遊び」のなかで—

#### ① わらべうた遊び

附属幼稚園において、“附属ならではの”といえる特徴的な活動として「わらべうた遊び」がある。わらべうた遊びは、子どもの遊びや生活の中から生まれ伝承されてきたもので、「言葉」「音楽」「動き」が一体となった遊びである。無伴奏で、簡単な旋律からなり、誰でもすぐ口ずさめ、また、日本の原風景をあらわす歌詞は世代を超えて楽しめる要素をも内包しており、子どもが遊びながら、変化・創造させていく多様性も含んでいる。何よりわらべうたには、歌いながら、相手を見る、相手の体に触れる、体を動かす、想像する、グループをつくる、ルールを知る、交代するなどの要素が含まれており、わらべうた遊びを通して規範意識や協調性、とっさの判断力などの資質能力を育てることが期待できる。

このわらべうた遊びに注目し、平成21年度から23年度まで、副題を「わらべうた遊びを通して」として、子どもが楽しく遊ぶ中で“かかわる力”を育てる援助の在り方の研究に取り組ん

---

\*宮崎大学教育文化学部附属中学校校長

\*\*同附属小学校校長

\*\*\*同附属幼稚園教頭

だ。その結果は、平成21年度から平成23年度までの附属幼稚園研究紀要「かかわる力を育てる援助の在り方～わらべうた遊びを通して～」としてまとめられている。子どもが楽しく遊ぶ中で「人、もの、こと」に“かかわる力”を育てる方法があるのではないかと考え、子どもの遊ぶ姿を振り返ったところ、縄跳び遊びの「大波小波」や「郵便屋さん」などのうたに合わせてタイミングよく跳んで遊ぶ姿や、「花いちもんめ」や「かごめかごめ」を歌いながら、相手の目を見たり、手をつないだり、呼吸を合わせたりして遊ぶ姿が見られた。いわゆるわらべうた遊びが、「人、もの、こと」に“かかわる力”を育てる方法の一つではないかと考えた。人とのかわりに焦点を当て、具体的な援助の在り方を探るために、実践後に保育カンファレンスを行いながら、わらべうた遊びを通した本研究でいう「かかわる力」の育みを以下に検証する。

② わらべうた遊びと本園で育てたい3つの力との関係 (図1)

本園では、「人・もの・こと」に“かかわる力”と工夫し“考える力”、自分の気持ちや考えを“表現する力”の3つの力を育てることが必要であると考え、研究を進め、そして育てる援助を行っている。

その3つの力とは、以下のように捉えている。

“かかわる力” …人を信頼し、人やものに触れ合い積極的に活動に取り組む力

“考える力” …活動に取り組みながらよいことや悪いこと、きまりなどを知り、気付きや発見、工夫などをする力

“表現する力” …自分の気持ちや考えを言語的、身体的、音楽的、造形的な活動で自分らしく表現する力

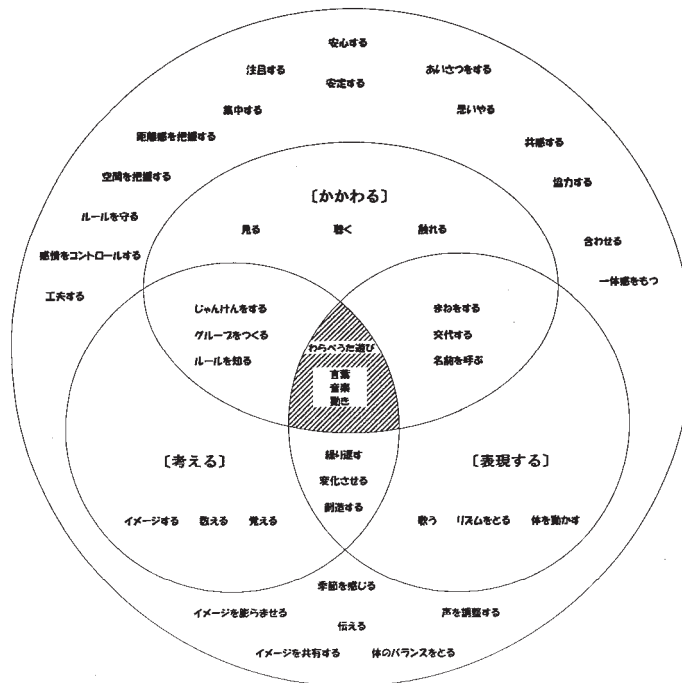


図1 附属幼稚園 わらべうた遊びの要素と3つの力の関係

これらの3つの力は、それぞれが独自に育まれるのではなく、互いに影響し合いながら伸びていくものである。

わらべうた遊びは、「言葉」「音楽」「動き」の3つの要素で構成される。図1は、わらべうた遊びが、本園の目指す3つの力がとどのように関係するのか整理したものである。

その3つの力が具体的にどのように育まれるか、「かごめかごめ」で例示しよう。

#### 【色々な友達とかかわる姿】

「かごめかごめ」は、数人で輪を作りオニが一人輪の中に入って行う。多くの子ども達が取り組んだ「かごめかごめ」の様子の事例である。数人の子どもがオニになりたいと思い、輪の中に入り、曲が終わったときにオニの後ろにいる友達の名前を当てている姿が見られる。普段あまり話をしないような子ども同士でも偶然に出会いながらかかわり合える。

#### 【ルール作りのために考えを出し合っている姿】

子どもながらに遊びのルールを話し合いながら遊びを進めている姿が見られる。子どもたちが、場面場面でいろいろな考えを出し合い、友達の考えに耳を傾けながら、みんなでルールをつくっていくことは、考える力を育んだり、共同性を培うことにつながる。日頃から自分なりの考えを表現し、認め合える雰囲気づくりをする援助をしている。

#### 【考えたことを自分なりに表現する姿】

「かごめかごめ」に取り組んでいると、輪の中に入るオニが多くなり、輪を作る子どもの人数が少なくなり、「輪が作れない」「オニが多すぎ」などと、困った気持ちを表現する子どもが出てくる。わらべうた遊びをみんなでもっと楽しみたいと思い、自分の素直な気持ちを表現する子どもの姿が見られるようになる。このような子どもの素直な気持ちを表現させるためには教師は、子どもの声をしっかり受け止める。

### ③ わらべうた遊びを通じての「人とかかわる力」の発揮

本園でのわらべうた遊びの研究では、子どもの実態に合わせて選出したわらべうた遊びのさまざまな要素と、“かかわる力”、“考える力”、“表現する力”との関係を整理するなかで、本研究でいう「かかわる力」につながるものが多いことが分かってきた。この力は以下のように積極的な形で園児を超えて展開する。

附属小学校2年生と年長児との交流活動「学校探検」において、大学内での昼食後、何も遊び道具がない場での遊びの時間に2年生から「花いちもんめ」を年長児は教えてもらったところ、大変楽しかったようであり、次の日幼稚園で、登園後すぐに友達と一緒に取り組む子ども達の姿が見られた。「花いちもんめ」を知らない子どもも、楽しそうな友達の表情を見て参加していた。最初は戸惑っている表情の子ども達も、教えてもらううちに一緒に言葉をかけながら、楽しめるまでになっていた。その1週間後、中学3年生の家庭科実習においても、年長児が中学生に「花いちもんめ」を誘いかけていた。中学生も懐かしいといいながら年長児と一緒に遊び始めていた。

このようにわらべうた遊びは、子どもたちそれぞれの「好きな遊び」（自由遊び）が尊重されるなかで、「人とかかわる力」を園児の範囲を超えて発揮することができる。

### ④ 「わらべうた遊び」と「かかわる力」との関係

「わらべうた遊び」は、附属幼稚園では以上のように3つの力を意識してとりいれている。心地よさや楽しさを味わい、子どもが安心して過ごすことができる素地を培えることや、遊び

の中で教師が子どもの実態に応じた援助をすることで、教師や友達と触れ合いが生じ、「人とかかわる力」が育まれることが確認できる。

本研究でいう「かかわる力」の諸能力との関連で捉えても効果的な取組であることがわかる。

- ・自分の思いを自由に表現できるようになる（傾聴力・発信力）
  - ・自分と友達の考えの違いに気付くようになる（状況把握力）
  - ・子ども同士互いの考えを認め合うようになる（課題設定力）
  - ・自分の得意な遊びに取り組み自分らしく活動する（方法選択力）
  - ・友達に手本を見せようとして友達に関わろうとする（課題遂行力）
- 等のような姿が見られた。

## 2) 附属小学校 「いとし子 命の集い」とその関連授業のなかでー

### ① 「いとし子 命の集い」

附属小学校で、“附属ならではの”といえる特徴的な活動の一つとして「いとし子 命の集い」を取りあげることができる。慰霊行事等を通じて、遠い先輩に思いを寄せ、協同で心や「命」の在り方を想像する場面がみられる。

本校の校門横に、「いとし子の供養碑」(資料1)がある。

昭和20年5月11日、本校の前身である宮崎師範学校附属国民学校の子どもたちが下校時に空襲に遭い、尊い命を奪われるという出来事が起きた。その時、我が子を亡くした一人の母親が、我が子の冥福を祈り建立した供養碑である。以前はその被弾した現場に建立してあったが、平成17年に関係者の了解を得て、母校となる本校校門横に移設したものである。

その平成17年から平和学習の一環として、5月11日に「いとし子 命の集い」という児童参加の集会を開いている。毎年、御遺族の方も出席され、遺族としての思いを語っていただいている。

本年、平成27年は戦後70年、またこの供養碑移設10年という節目の年であることから、本校職員が遺族の方々の協力を得て、この「いとし子」に係る教材(国語、道徳、音楽(歌))を作成(資料2)し、「いとし子 命の集い」とあわせて、平和学習の一助とした。

### 学校行事「いとし子 命の集い」

この集いは、教師の指導の下、高学年の児童で組織された「集会委員会」が主体となっていく集会活動(資料3)であり、内容等は以下のとおりである。

#### ○ ねらい

- ・70年前に戦争の犠牲となった附属小学校の先輩たちの供養を行い、平和の大切さや生命の尊さを感じ取る。

資料1 いとし子の碑に献花する児童



資料2 「いのちと平和の学習教材」の冊子



資料3 いとし子命の集いの様子



○ 内容 [命の集い + 供養碑への献花]視聴

資料4 児童代表発表の様子

- (1) はじめのことば（集会委員会）
- (2) 「いとし子 命の集い」について（運営委員会）
- (3) 児童代表作文発表（6年生代表児童）
- (4) 御遺族の方の紹介
- (5) 遺族代表の方のお話
- (6) 校長先生のお話
- (7) 黙祷
- (8) 全校合唱「いとし子の歌：黄色い花が咲く頃は」
- (9) おわりのことば（集会委員会）



※ 終了後、「いとし子の供養碑」前に移動。学年毎に献花。

○ 児童代表の作文

下の文章は、第6学年の代表児童（資料4）が発表した内容の全文である。

いとし子の思い、御遺族の方々の思いを自身のことばで綴っている

**[児童作文] 戦後七十周年のいとし子命の集いの日に思うこと（6年児童）**

今日は、戦後七十周年のいとし子命の集いです。私達の先輩がその尊い命をおとされてから、今日で七十年が経ちます。

七十年という年月は、わたしにはどれくらいの長さなのか分かりませんが、空襲でなくなられた方々やそのご遺族の方々のことを考えました。

今日から七十年前、日本は戦争の中にありました。戦争の中であっても、附属小学校では今の私達と同じように子供たちが学校生活を送っていました。まさか、自分が命をおとすことになろうとは、思ってもいなかったことでしょう。友達と楽しくお話をしたり授業をがんばったりしていたことでしょう。その後、空から爆弾が降ってきます。自分のすぐ近くに降ってきた爆弾を見たときにはどれほどの恐怖があったことでしょう。何も悪くないし、私達と同じようにやりたいことがたくさんあったことと思います。夢や希望を一瞬にして奪われてしまいました。

御家族の皆さんは、深い悲しみに包まれたことでしょう。まさか、自分の家族がという思い、なぜ、自分の子がという思い、嘘であってほしいという思いがあったのではないかと思います。その思いは決して消えることなく、七十年経った今でも、続いていることと思います。

戦争は、今の日本にはありません。私は、日本から離れた国で行われている戦争のことをテレビで見ることはあります。また、歴史の教科書には日本が行った戦争のことが書いてあります。戦争は、今を生きる自分とは遠いところにあるもののように思いますし、自分にも深く関係していることのようにも思います。不思議な気持ちです。この気持ちをもたせてくれているのは、このいとし子命の集いのおかげだと思いました。私にとっては、今年で六回目の命の集いです。私達の先輩の悲しみ、御遺族の皆さんの悲しみに触れることで、戦争の怖さを感じたり、平和の大切さを感じたりしてきました。

平和な日本に生まれている私達ですが、いとし子の皆さんが命をかけて語り続けているメッセージ、そして、御遺族の皆さんの思いをしっかりと受け継いでいくことを、今日、約束します。尊い命の犠牲があったうえで、今の平和な毎日があることに感謝し、自分の夢や希望にむかって力強く生きていきたいです。

児童は、今の自分に、そして自分たちにできること、考えないといけないこと、更にはこれからの私たちの向かうべき方向を的確に表現している。



## ② 関連する授業の実際（道徳）

本年度は、「いとし子 命の集い」に関連して、一層の平和学習の充実をねらい、この史実をもとに国語と道徳、音楽の教材化を図った。




ここでは、道徳の教材を活用した実践（後藤和之）を取り上げ、紹介する。

## ○ 第4学年道徳の実践

本実践の主題は「いのちと平和の大切さ」、教材は本校『いとし子教材化プロジェクト』作の読み物資料「五月十一日」を活用した。

ねらいは、「いのちがかけがえのないものであることを改めて感じ、いのちを大切にしよう」と

表1 附属小学校 第4学年道徳「いのちと平和の大切さ」の学習指導過程

学習活動及び学習内容	指導上の留意点	資料・準備
1 戦時中の子どもの様子について話し合う。 ○ 厳しい生活の中で、苦しくてもたくましく生きている様子について ○ 学習テーマ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">戦時中の生活について考えよう。</div>	○ 資料前半の戦時中の子どもの様子を読んで聞かせ、当時の子ども達をどう思うかと問うことで、苦しうでもたくましく生きていたことに気付けるようにする。 ○ 当時の子ども達は、楽しさと苦しみのどちらが大きいかと考えさせることで、当時の様子を深く考えられるようにする。	読み物資料 「5月11日」
2 学習の進め方について話し合う。 ○ 資料について	○ 当時の子ども達に対する思いを確認し、この後、主人公にとっても悲しい出来事が起こることを伝えることで、資料への関心をもって考えていけるようにする。	
3 資料後半を視聴し、話し合う。 ○ 「いつかぼくも・・・」という気持ちになった主人公について ◎ 5月11日の爆撃に襲われた主人公の思いについて ○ 主人公の思いが変わった場面について 	○ 主人公の「いつかぼくも・・・」に続く言葉を考えさせ、答えに対する理由を問うことで、戦時中の子どもの思いに寄り添えるようにする。 ○ 爆撃機の写真とともに資料を読み聞かせることで、当時の爆撃の様子を想像しながら、主人公の思いを考えられるようにする。 ○ 「いつかぼくも・・・」というキーワードを基に、はじめの場面と終わりの場面の主人公の思いの違いを考えさせることで、戦争の悲しさを改めて感じられるようにする。 ○ 主人公の思いが変わった場面を考えさせ、答えとその理由を問うことで、いのちや平和の大切さについての価値観が育まれるようにする。	 写真 学習プリント
4 いのちや平和の大切さについて考える。 ○ 御遺族の思いについて ○ いのちと平和の学習教材に込められた思いについて	○ いとし子命の集いをふりかえり、命と平和の学習教材に込められた思いを伝えることで、改めていのちや平和の大切さについての価値観が深められるようにする。 ○ 本時学習をとおして感じたことや考えたことを学習プリントに記述させることで、価値観を整理し、今後の生活へとつなげていくことができるようにする。	 学習プリント

する態度を育てる」「平和のありがたさを改めて感じ、御遺族、または先輩方から受け継がれてきた平和を大切にしようとする思いを引き継いでいこうとする心情を育てる」である。

前頁（表1）に本指導の学習過程を示す。

道徳の授業を終えて

指導した教諭が事後に保護者向けに発行した道徳新聞の一部を掲載（資料5）する。

資料5 附属小学校 第4学年道徳「いのちと平和の大切さ」授業後の保護者向け道徳新聞

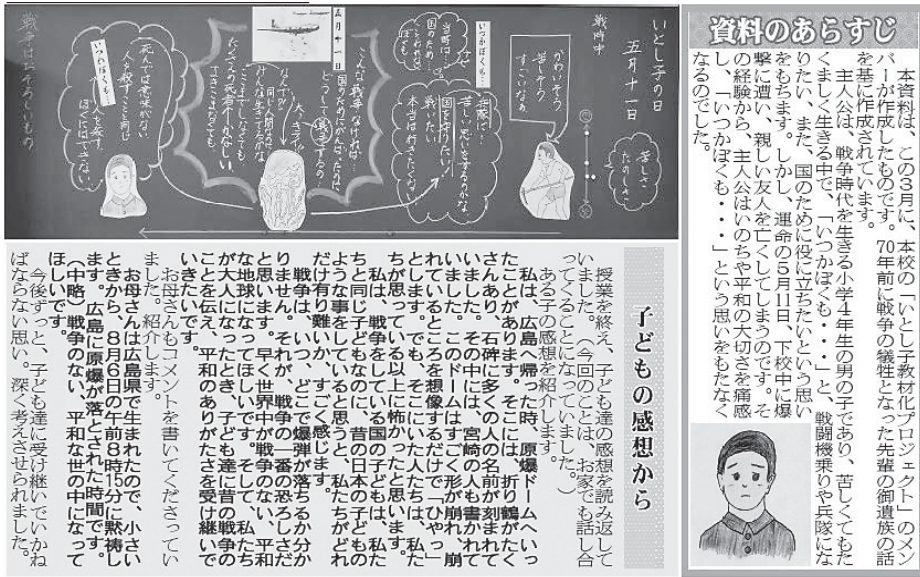


表2 附属小学校 「いとし命の集い」と「かかわる力」との関係

Table with columns for '能力' (Ability) and '「かかわる力」の育成に関すること' (Activities related to 'We are able to connect' cultivation). The table lists various activities like '講演力・発信力' (Lecturing/Communication), '状況把握力' (Situation Awareness), '課題設定力' (Task Setting), '方法選択力' (Method Selection), and '課題遂行力' (Task Execution), and evaluates their relationship to 'We are able to connect' through a series of circles.



## ③ 「かかわる力」との関連

本実践における「かかわる力（小学校）」との関連を表2に示し、まとめとする。

## 3) 附属中学校 橋祭での合唱コンクールにいたるプロセスのなかでー

中学校で毎年実施される文化祭を「橋祭」という。校章が「橋の花」であることがその由来であろう。この中の合唱コンクールについて、当日およびその前後を中心に「かかわる力」との関連性をみていきたい。

## ① 昨年度（平成26年度）の取組

以下（表3）のような日程で「橋祭」（担当：鬼塚 拓）等に向けて取り組んだ。下の欄「力」に記載されたA～Dは、事項に関連する「かかわる力」の諸能力を表す。

表3 附属中学校 橋祭と「かかわる力」との関連

A：傾聴力・発信力、B：状況把握力、C：課題設定力、D：方法選択力

月日	職員会等での共通理解事項等（担当者）	力
4/2	学級での合唱の取りませ方について（音楽科）職員共通理解（=共通）、学担	A、B
4/3	入学式での生徒の座席表（S・A・T・B）について（音楽科） 共通	
4/6～	始業式以降の各学級での朝の会・帰りの会での合唱 学担	A、B ⇒ C、D
5/14	橋祭の概要（全体運営・合唱）について（生徒指導部） 共通 学担	
5/20	橋祭・合唱の部 選曲について（音楽科） 共通 学担	A、B
5/28	合唱コンクールの部の運営について（合唱コンクール実行委員会）（音楽科） 組織（音取り係、合唱指導係、指揮者、伴奏者）の決定 共通 学担 縦割り練習、朝の会・帰りの会の練習曲確認、練習隊形・発声のポイント 機器等の準備（キーボード、ピアノなど）、音源CD等 学級担任の指導	B② C D
7/14	橋祭の概要（ステージ発表、展示発表、プログラム案、テーマ決定、実行委員会報告、全校生徒によるアート作品、パンフレット案等）共通 学担	
8/18	橋祭の前日・当日の日程等（展示発表の流れ、橋祭パンフレット作成スケジュール、当日のプログラム、前日までの準備・担当案） 共通 学担 合唱コンクールの部 実施計画 （確認事項、当日の日程、準備物、借用物、放送原稿等）	
8/28	橋祭（美術部・美術科展示場所、来年度の橋祭の日程） 共通 学担 合唱コンクール実行委員会（縦割合唱練習計画、コンクール担当第1回役員会）	A、B
9/9	橋祭に向けてのファミリー集会 実施計画案（8：10～8：30）9/11 共通 学担	A、B ⇒ C、D
10/6	縦割合唱練習計画案（10/8、10/27 各2時間）共通 学担 ①ビデオ視聴 ②パート練習・合わせ ③相互演奏・鑑賞 ④他学年からのアドバイス	C、D
10/7	橋祭の保護者への案内 11月2日（日）本校アリーナ 11月3日（祝）メディキット県民文化センター アイザックスターンホール	
10/9	橋祭 最終運営案（準備、当日の流れ・分担、片付け等） 共通 学担	C、D
10/27	橋祭 直前確認等（リハーサル、合唱意気込みビデオ撮影 1日目最後に流すみんなの写真プロジェクト 技術室前に掲示 ベストショットの鑑賞） 共通 学担	D

11/3	橘祭 合唱コンクール当日 共通 学担	E
11/15	橘祭を終えてのファミリー集会（8：10～8：30）大地讃頌（3年生）振り返り 橘祭の反省（職員会） 共通 学担	C、D
12/11	立志式 活動計画案（2/5）全体合唱 大地讃頌 共通 学担	A～E
2/10	3年生を送る会（15：00～15：50 3/11） S・A・T・Bでの整列 共通 学担 1年「エールを贈る」 2年「友～旅立ちの時～」 3年「流浪の民」全体大地讃頌	A～E
3/14	第67回卒業証書授与式 3年生 ハレルヤ 全体 大地讃頌 共通 学担	E

② 生徒の反応

橘祭までの取組を第1期（4・5月）、第2期（6～8月）、第3期（9月）、第4期（10月・11月）の4つの時期に分けて、昨年度の2年生4人の「北斗」からいくつか抜粋する（表4）。この「北斗」とは、中学校全学級の全生徒が学級担任と毎日交換する生活の記録である。

Aは合唱コンクール実行委員、Bは指揮者、C・Dはソプラノパートである。太字は、交流合唱の影響・効果等、点線は学級の課題等である。

表4 附属中学校 橘祭をめぐる生徒の記録

時期	月日	生活の記録（北斗）の内容	生徒の反応
第1期	4/23	音楽の授業のとき、帰りの会のとき、合唱がうまくなっていました！嬉しくて自然とやけてきます。でもへらへらしてはいけませんよね。私もみんなに負けないようにがんばります。A女	うまくなってきた（自己満足）。
	5/15	今日もみんな合唱を頑張っていました。私も大きな声を出そうと頑張っていたのですが、あまり音程が合わなくて少し悔しい思いをしました。明日は音程を気をつけて歌いたいです。C女	音程が合わない。
	5/22	A級との合唱交流会では全体的に負けていたのではないのでしょうか。でも合唱練習の量はB級の方が多し、質も良いと思うので、すぐにA級に追いつくと思います。B男	隣の学級との合唱交流では負けている。
第2期	6/4	今の2Bの状態なら、合唱は全然だめですよ。金曜日の音楽、多分ボロボロになっていると思います。A女	合唱はボロボロの状況。
	6/11	今日は自由曲と課題曲の楽譜とCDが配られました。だんだん橘祭が近づいてくるんだなと思いました。D女	橘祭に向けてスタート。
	6/12	3Bさんと合同帰りの会でした。やはり上手いですね！柱に隠れて見えない人までちゃんと歌っているのもすごいです。3年生に学ぶことはいっぱいありますね。今度は私たちが1年生に教える番です。1Bが絶対金賞とれるように。A女	3年生と交流合唱。3年生はさすがにうまい。
第3期	9/19	今日は合唱のとき音がすごくずれていました。他のクラスの人にも「半音以上低くて気持ち悪かった」と言われました。もっと改善が必要です。D女	音程が合わずに苦しむ。
	9/25	今日は合唱を何回もしました。私はきっちり練習がしたかったので嬉しかったです。しかし、男子の一部がすごく嫌そうにしておかしいなど思いました。D女	練習はできたがまとまりがない。

第 4 期	10/3	今日の放課後の合唱では、上手にできているところ、悪いところがよく分かりました。悪い点は、ピッチが合わないところがあるのと、rit.のところからの入るタイミングが合わないところです。常に真面目に取り組み、地道にその問題点をなくしたいです。C女	ピッチやrit.から入るタイミングが合わない。
	10/29	2Bのすてきな合唱を僕が指揮をしていいのでしょうか？すごく責任感を感じています。B男	指揮者としての責任。
	10/31	今日は合唱ですごく怒られました。あと2日くらいなのにこんなので大丈夫なのでしょうか。でもみんなの合唱コンクールへの気持ちが聞けたので良かったです。D女	担任の激とみんなの気持ちを確認した。
	11/6	私は〇〇先生に怒られる時間は嫌いじゃなかったですよ！というか怒られたおかげでスイッチが入りました。あのときはむかついたけど、今はありがたく思っていますよ。今日から再出発でしたが、いいスタートだったかなと思います。次の目標に向かってがんばろう！A女	担任へのお礼メッセージ。

### ③ 橋祭合唱コンクールを終えて

平成26年度の橋祭は11月3日に実施した。橋祭終了後に今までの取組を振り返ってもらい2年生の学級生徒（学級担任 鬼塚拓教諭）に書かせた一部を下記（資料6、7）に記載する。文中の点線は練習等に対するマイナスイメージ、太字は金賞につながった取組や生徒が気付いたこと等である。

#### 資料6 附属中学校 橋祭終了直後の生徒の感想 その1

橋祭、特に合唱コンクールは、すごく楽しかったです。楽しかった理由としては、A級、B級、C級、D級、全クラスで競い合ったから、そしてその中で金賞と言う結果出せたからだと思います。

僕は正直、合唱があまり好きではなくて、昼休みや放課後の練習も全く行きたくなかったし、早く終わればいいのにとか思っていました。だけど、「どうせ練習しないといけないから」と思って自分の中ではまあ真剣に練習できた方だと思います。だから、**橋祭直前で指導された時は**、ふざけていた人たちに少し腹が立ちました。でも、その日を境に、**クラスの団結が深まったように感じて**、指導されたことが+（プラス）の方向へ動いていると思いました。

コンクール当日では、他のクラスの合唱を聞いて、少しビビって緊張しました。いざ演奏するときも、自分がテンポを速くした様な気がして、終わった後罪悪感で一杯になりました。結果発表のとき、「2年B級」と言われたときは、びっくりするくらいうれしかったです。仮にコンクールで金賞をとってもあまり喜ばないだろう、と思っていたので自分自身にびっくりでした。

僕は橋祭をとおして、**努力した分だけ、結果が出たときの喜びは倍増する**ということを知ることができました。練習は「やらされている」だったけど、**2年のクラスの中で一番練習したということには自信をもっていい**と思います。全く練習せずに本番に臨んでもあまりうれしくなかったと思います。（男子）

#### 資料7 附属中学校 橋祭終了直後の生徒の感想 その2

橋祭2日目の合唱コンクール。2年B級は金賞をとった。素直に、**今までやってきたことが、結果になったんだな**と思った。他のクラスからは、「金賞おめでとう」とか「虹、上手だったよ」とか言われてうれしいけど、なんかうれしくなかった。長い間頑張ってきたことを、たった一言でまされるのは悔しかった。

体育大会が終わると次は橋祭がやってくる。みんなが一つの行事に向かってはしる時。音楽の授業では最初は、「女子は声が細い。高い音が出ない。」とかたくさん指導された。ダメ出しばかりされる

と人間はやる気を失うもので、私は合唱したくないなって思ったりした。

けど、朝の会と帰りの会、昼休み、放課後に練習したのが結果となってついてきて、少しずつほめられる言葉ももらえるようになった。「ソプラノ、声大きくなってきたね。」その一言が自分をやる気にさせてくれた。合唱実行委員が大変だったのは昼休みの練習とかだったと思う。「昼休み合唱やると～？」という言葉がちらほら聞こえてきた。それに合唱実行委員が「するよ。」と答えれば、「え～。」と答える人もいる。今はクラスのみんながまとまって練習する時だから、しっかりすればいいのにと

思う。橘祭が近づくとだんだん焦ってくる。みんなの意識がかわるのか、すごく真剣な目で取り組む。少しみんながまとまっていくのがわかったような気がした。体育大会だって団のまとまりを重要とするものであって、一人でも違う心をもっていたら優勝なんてできない。合唱は、はじめてみんながまとまって学級の声が存在する。一つの物事に対して、みんながまとまって行動すればよい結果が待っていると思う。まとまりを大事にするクラスはきっと強くなれると思った。(女子)

#### ④ 「かかわる力」との関連

「かかわる力」の5つの能力はすべて本取組を通じて発揮することが求められる(表3)。上記の流れで「かかわる力」を段階的に育成することが可能であると思われる。このことは、部分的ではあるが、生徒の記述からも読み取ることができる。その際、以下の点についての要素がその結果に影響を与えると考えられる。

「かかわる力」育成のためのキーマン

##### i 学級担任の意識・理解

(日頃の合唱活動に対する助言、リーダーを育てる力量(特に1年は困難)、生徒の音楽性を引き出す等)

##### ii iにより鍛えられ、育成された学級のリーダー

「行事」等の意識的配置

学年や全校生徒等で合唱を行う機会の意図的な確保

(入学式、体育大会、教育実習Ⅰ・Ⅱ、ファミリー集会、縦割合唱練習、橘祭合唱コンクール、立志式、3年生を送る会、卒業式等。)

また、隣の学級同士の合唱交流、ファミリー学級間の交流合唱等により相互に聴き合うことはかなり大きな影響力となる。

今後の可能性

保護者への披露機会の確保

(入学式、PTA総会、参観日、体育大会、橘祭合唱コンクール、立志式、卒業式等)

校外活動への参加

(市音楽大会…代表学級)

(合唱部の出場…ユニセフの会 7月2回、宮崎県平和の集い 8月)

(合唱部：平成25年度 廃校になった学校の校歌演奏CD化 宮崎県教職員互助会依頼)

幼稚園・小学校との連携

(幼稚園バザーでの吹奏楽部の演奏)

#### 4 考察

以上の「わらべうた遊び」、全学年の「いとし子命の集い」の行事と関連授業、文化祭「合唱コンクール」をめぐる活動といった幼稚園、小学校、中学校それぞれ“附属ならでは”といえる特徴的な活動において、本研究でいう「かかわる力」はどのように育まれているか、考察しよう。いずれの活動も「かかわる力」は、主たる目標事項として明確には位置付けられてはいない。けれども、その諸能力は、部分的要素として意識されつつ、取組を通じて機能として育まれていることがわかる。一連の流れとしてどのような成長の系列がたどれるかに留意しつつ、その特質をここに整理しよう。

第一に、「かかわる力」は、幼小中それぞれの活動それぞれ内容が異なっていて、一見して連続性が明確にたどれるわけではないが、5つの能力ともに求められている。とくに「課題設定力」がいずれにも育まれている点が注目される。しかも“附属ならでは”といえるほど他の学校園と対比しても特徴的な姿が認められる。「わらべうた遊び」では、「オニ」の希望者が多くなってしまったなど、困った事態が生ずることがある。相手の目を見たり、手をつないだり、呼吸を合わせたりして相手とかかわり、楽しい時間をひき続き共有するには、どうしたらよいか、子どもが自発的に考える場面が、自然な形で教師たちによって見守られ尊重される。わらべうた遊びにおいて「考える力」の契機も重んじているのは“附属ならでは”、といえる。「命の集い」と関連授業では、今は亡き遠い先輩のことに歴史的事実とともに思いはせ、その場面を想像しながら「命」のはかなさ、たつとさを感じながら、「かかわる力」を育み、そして発揮するが、教師の導きとともに「課題設定」され、そして遂行される。「合唱コンクール」とその日にいたるプロセスでは、5月から11月の当日までの半年余、金賞受賞をめざすという課題を設定し、クラスごとにメンバーが協働しステップを一つ一つ乗り越えてゆく姿が見られる。

第二に、毎年の積み重ねによって、「かかわる力」の諸能力は、質的に高まってくる。「わらべうた遊び」では、年齢を超えて楽しめるので、附属小中学校との交流活動において発揮するようになる。「命の集い」では、毎年実施することによって、子どもは年齢を重ねるごとに、「かかわる力」が深まることが期待される（国語、道徳の教材「いのちと平和の学習教材 いとし子への誓い」）。中学校の橘祭での「合唱コンクール」を通じて育成された「かかわる力」は、コンクールの結果や感動にもつながり、生徒自身も「かかわる力」が育ったことが実感できる。毎年経験をすることで、その力を積み重ねることができ3年間で「かかわる力」は大きく伸びる。

第三に、橘祭の「合唱コンクール」での発表を到達点として捉え、選曲し合唱することを通じて協調性の発揮しながら美的なものを表現するという「課題設定」に着目すると、「わらべうた遊び」から「命の集い」での想像力発揮・「いとし子の歌：黄色い花が咲く頃は」の合唱という幼稚園、小学校の段階は、その貴重な前段階のステップとなっている。

“附属ならでは”の活動においては、以上のような特質を示した「かかわる力」を育てている。

#### 執筆分担：

- 1 河原国男
- 2 1) 福島裕子  
2) 鶴戸周成  
3) 安藤真二
- 3 河原国男、安藤真二、鶴戸周成、福島裕子